



水稲用殺菌剤

# ブーン® 粒剤

いもち病

白葉枯病

もみ枯細菌病

内穎褐変病

は種前から

WCS※使用可

高密度は種対応

稲の病害抵抗性がアップ!

# 病害から 守る!

- ・いもち病に優れた効果。
- ・幅広い時期に使用可。
- ・優れた浸透移行性と残効性。



いもち病



ブーン®、®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

※WCS: 稲発酵粗飼料

# ブーン® 粒剤

有効成分 ジクロベンチアゾクス …………… 2.0%  
人畜毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)

## 特長

育苗箱処理・本田への湛水散布で  
いもち病に優れた効果を示す

は種前から葉いもちの初発前まで  
幅広い時期に使用可能

優れた浸透移行性、  
長い残効性を有する

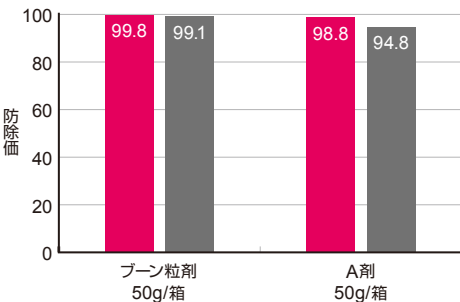
## 適用病害と使用方法

2026年2月現在

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジクロベンチアゾクスを含む農業の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病、 内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当50g	は種時(覆土前) ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する	3回以内 移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)			
	もみ枯細菌病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、 苗立枯細菌病		は種前			
	いもち病、白葉枯病、内穎褐変病	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50～100g)	は種時(覆土前) ～移植当日		育苗箱の上から 均一に散布する	
	いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病、 内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆土前)			
	もみ枯細菌病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、 苗立枯細菌病		は種前			
いもち病、白葉枯病、内穎褐変病	は種前	育苗箱の覆土に 均一に混和する				
いもち病、白葉枯病、内穎褐変病	育苗箱の床土又は覆土に 均一に混和する					
稲	いもち病、もみ枯細菌病、内穎褐変病	1kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	

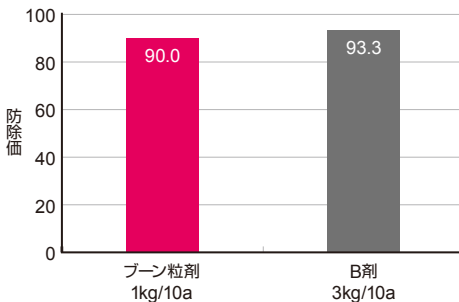
## 試験成績

●いもち病(葉)に対する効果(育苗箱処理)



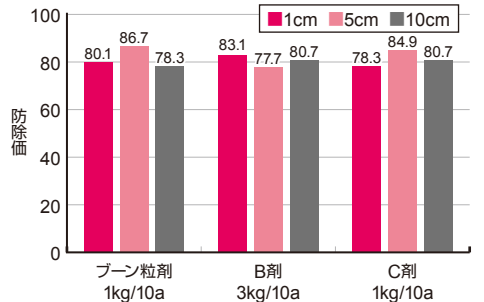
2023年 秋田県農業試験場  
品 種：ナツミノリ  
区制・面積：1区63.0㎡(3.0m×21m)2連制  
播 種：4月11日 移植：5月16日  
処 理 日：5月16日(移植当日処理)  
発 生 状 況：多発生(接種)  
調 査 日：7月24日(移植69日後)、  
8月15日(移植91日後)  
調 査 方 法：各区100株×2地点の病斑数より  
防除率を算出した。

●いもち病(葉)に対する効果(湛水散布)



2023年 株式会社Field Styled Lab.(鹿児島県)  
品 種：ヒノヒカリ  
区制・面積：1区30㎡(1.5m×20m)、3連制  
播 種：5月22日 移植：6月12日  
処 理 日：7月24日  
発 生 状 況：少発生  
調 査 日：9月4日(移植84日後)  
調 査 方 法：各区30株の病斑数より防除率を算出した。

●湛水散布条件における水深別いもち病防除効果



2024年 クミアイ化学工業(株)社内試験  
品 種：コシヒカリ  
区制・面積：1/5,000aワグネルポット/区 3連制  
播 種：3月26日 移植：4月17日  
処 理 日：5月14日  
接 種：5月24日  
調 査 日：6月10日(移植54日後)  
調 査 方 法：形成された進展型病斑数を調査し、  
茎あたりの病斑数から防除率を算出した。

## 【使用上の注意事項】

- 育苗箱施用の際は以下に注意してください。
  - 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
  - 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
  - 苗を田植機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とした後軽く灌水してください。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
  - 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後に田面が露出しように注意してください。
  - さく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないよう処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本田施用の際は以下に注意してください。
  - いもち病の発病前に予防的に散布してください。
  - 散布に当たっては、湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布し、特に、藻類、表層剥離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、ていねいに散布してください。また、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないでください。
- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
  - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。

- 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
- 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置の開度を調整してください。
- 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離してほ場内に散布してください。
- 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないよう十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、処理した水田、処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、冷却・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、  
登録内容とSDSは  
こちらから。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。